「生態学的混播・混植法」とは…

生態学的混播・混植法は、自然林の成立過程を再現し、自然に近い樹林の再生を図るために開発された、目標の設定・タネの採取・苗の養成・植栽・記録・追跡調査・評価の全体を含んだシステムです。この方法に基づく実績は、北海道内約200カ所、樹種は広葉樹を中心に73種、植えたポット数は約20万個を数え、追跡調査を通して成果の確認と手法の改良をはかり、着実に自然に近い森を再生・造成することが可能になり、津波被災地へも展開中。

タネを集めて、苗を育てて、植えて、見守って、育つ森を楽しんで、またタネが実る。「緑の手づくり」

フォーラム登壇者プロフィール

【著者のはなし】

吉井　厚志 …みずみどり空間研究所主宰

1957年博多生まれ。1957年北海道大学農学部を卒業後、北海道開発庁（現国土交通省）採用、国土保全・環境保全の仕事に従事する。1988年から台風委員会事務局（在マニラ）で洪水被害軽減の技術協力に携わる。1991年から岡村教授と緑づくりの共同研究を始める。2015年4月に行政と研究の仕事を退官し、みずみどり空間研究所主宰。

岡村　俊邦 …北海道科学大学教授

1951年京都府生まれ。北海道大学農学部を卒業後、同大学院に進学、1979年道立地下資源調査所（現地質研究所）勤務。国土保全・環境保全の研究に従事。1991年北海道工業大学助教授に就任。自然に近い緑づくりの研究を再開し、開発土木研究所環境研究室と緑づくりの共同研究を始める。1997年北海道工業大学（現北海道科学大学）教授。

【緑をめぐる話し合い】（ゲスト）

はこざき　いわお …木の芽書房

1959年札幌生まれ。高校まで札幌で育つ。1983年長崎県立大学卒業後、V365（1年間ボランティア）となりドヤ街の老人クラブ「山谷老友会」の運営に携わる。札幌に帰郷後、広告・イベント企画会社に就職。えりも岬緑化記念事業の企画を通じ「森林の再生」に感動。以後キャンプ場情報誌の編集やフリーペーパーの編集･営業を経験する。

堀　じゅん子 …ホロヒラみどりづくりの会代表

札幌生まれ。武蔵野美術大学卒業、北海道大学大学院国際広報メディア研究科修了。都市の暮らしに身近な自然との関わりを取り戻したいと考え、2000年から豊平川幌平橋左岸に森と草っぱらを再生する活動「ホロヒラみどりづくりの会」代表。札幌大谷大学芸術学部教授。電子書籍の表紙は、実際の森の成長とその未来を描いたもの。

鈴木　玲 …北の里浜　花のかけはしネットワーク代表

1964年釧路生まれ。1987年北海道大学農学部を卒業後、雪印種苗(株)に入社、都市公園の施工や自然植生復元に従事。東日本大震災の津波被災地での植生復元を模索し、「北の里浜　花のかけはしネットワーク」を立ち上げて活動中。その傍ら 2004 年から地域での自然体験「手稲さと川探検隊」を展開。2015年4月からフリーになり五里霧中。

単行本換算 400 頁以上、
オールカラー写真・図版
250 点以上のボリューム

希望販売価格
1,200 円+税

緑の手づくり

自然に近い森をつくる「生態学的混播･混植法」の成り立ちと広がり

主要電子書籍ストアで
発売中

発売元：中西出版